



広島城北高等学校サッカー部OB会
広島市東区戸坂城山町1-3 広島城北学園内 〒732-0015
電話 082-229-0111 FAX 082-220-2366

『城北高校と僕』

33回生 中村 輪太郎

いつのまにか25歳。時がたつのは本当に早いもので、振り返ると城北高校を卒業してから7年という月日が過ぎていきました。

あの頃といえば、勉強とサッカーにひたすら明け暮れていたのを今でも覚えています。今考えればあれほど夢と希望に満ちていた時間でもなかったのではないのでしょうか。そう思えるくらい充実した時間を城北のサッカー部で過ごさせていただきました。寮生活ということもあり、女つ気は本当に0。しかし男臭いその特別な環境で得たたくさんのもの。そして育んだ男100%の友情は今でもかけがえのないものです。あのとときの仲間がいたから辛いときも頑張れたし、高校生活が楽しかった。付き合ひの悪いお前がと笑われるかもしれませんが本心にそう思えます。みんなありがとう。そしてこれからもよろしく。

城北高校サッカー部での1番の思い出といえば、やはり最後の試合となった対美鈴が丘戦。県大会2戦目のその試合に1対2で敗れました。僕たちの高校サッカーが終わりました。試合終了のホイッスルが鳴った瞬間にいろんなものがこみ上げてきて、たくさんの涙に変わりました。まわりの3年生もみんなが同じ顔をしていたのを覚えています。涙をぬぐいながら最後のダウンをしました。あのと3年生11人が同じ気持ちになっていたのだと思います。

今までの人生であれほどの「感動」を味わったことはありません。今までも、そしてこれからもずっと心の中で大切なものとしてあり続けるでしょう。そんな素敵な体験でした。

今の僕のことを少し。高校の時の夢は教師になること。今その夢は半分叶い、中学校の臨時採用の教員としてたくさんの生徒と毎日を送っています。2年生の担任とサッカー部の顧問を任せられ、生徒達と奮闘する毎日です。生徒の心をつかむのはこんなにも難しいものかと痛感しています。今になって宮本先生と黒瀬先生の苦労が少し分かった気がします。「1つ1つの練習に集中してやろう。そんな練習の仕方じゃ上手くなれないぞ。みんな大声を出して盛り上げよう。おいおい、好きなサッカーをしてるんだろ？もつと楽しそうにやれよ。」

なんて子供たちに偉そうに言っています。

気付くと、自分が言っていることは城北高校サッカー部の『Play hard together! Smile hard together!』そのものなんですね。宮本先生がおっしゃっていたこと。「城北サッカー部にプライドを持って!!」今になってようやくその言葉の意味が分かった気がします。で、その悪い生徒ですみません。でも今でも僕の中には城北サッカー部が生きていたのだと感じました。幸いにも教員という立場です。生徒達にも『城北スピリット』を伝えていきたいと思っています。

今の城北サッカー部のみなさんへ一言。当たり前ですが、高校生活は人生の中でたった1度しかありません。その1度の高校生活を一生懸命楽しんでください。勉強、サッカー、他にも何でもいいと思います。その中で、たくさんの仲間を作ってください。その仲間がこれからの人生の大きな財産になると思います。

長々と書きたいことを書かせていただきました。今回、このような機会をいただきましてありがとうございます。久しぶりに自分の高校時代を振り返らせてもらえました。人生まだまだこれから。あの頃の熱い気持ちを思い出して、これからも夢大きく生きていきたいと思っています。最後まで読んでくださった方、ありがとうございます。同期の11人にも今の僕の気持ちが伝わったらなと思います。

今回の文章の反省は、年初の初蹴りでした。と思いますので、宮本先生またよろしくお願いたします。

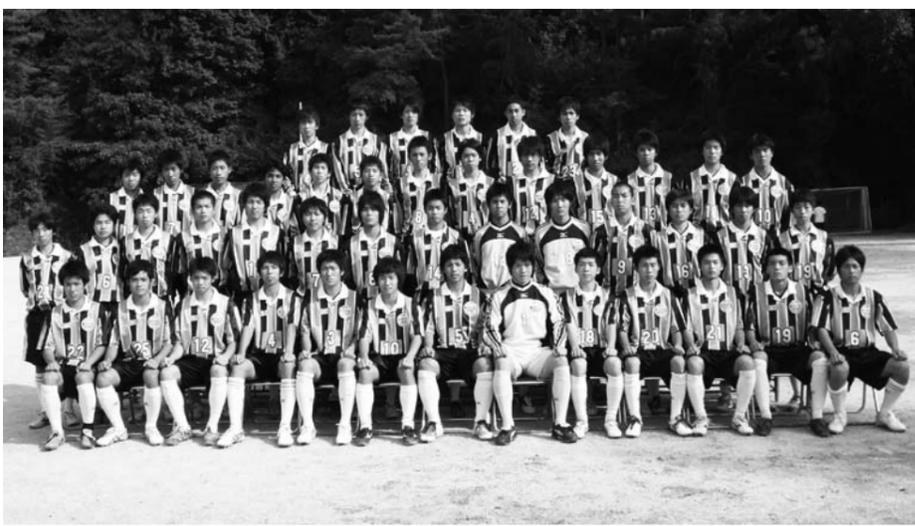


サッカー部での思い出

33回生 入川 充夫

33回生の入川充夫と申します。高校卒業から6年、雨になると決まって水溜りのできるグラウンドが今ではとても懐かしく感じられます。当時の自分を振り返ると、練習にはあもギリギリ行き、決して真面目な生徒ではあ

りませんでした。そんな私でもクラブ活動が禁止となる試験週間中はサッカーがしたくて体がウズウズしていたことを覚えていてます。なんだかんだ言ってもサッカーが好きだったから、中学、高校と6年間、部活動が続けることができたのではないのでしょうか。



高校サッカー部での思い出を振り返ると、県大会に出場したことや、PKを外して試合に負けたことなど、嬉しかったこと、悔しかったことがたくさんありますが、私はFW、MF、DFの全てのポジションを経験できたことがとても貴重な体験でした。ポジションが違えば、試合での動きや求められる役割が当然異なってくるため、ポジションが変わる度に一人で悩みましたが、傍から見ると案外うに見えることが実は大変だったり、実際に体験してみても初めて判ることがあることを実感出来ました。

宮本監督との思い出では、監督の「アンテナを張れ」という言葉が高校生ながら印象的で、今でもよく思い出されます。当時のクラブ活動では、月に一度ミーティングが行われ、グラウンドを離れて映画やドキュメンタリー番組を見る時間を設けていました。そのミーティングの中で、宮本監督がいつ

も「アンテナを張れ」、「何気ない日常からサッカーが上手くなるヒントを探そう」と話されていたことをよく覚えていてます。今振り返れば、この他にも練習前後に体脂肪率を量ったり、スポーツ学の勉強をみんなでしたり、練習日記を書いたり、グラウンドの外からもサッカーが上達するきっかけを私たちに与え、自分を成長させるヒントが様々なところに転がっていることを気付かせてくれた気がします。私はこの春から社会人に仲間入りし、現在は新入社員として研修の日々を送っておりますが、自分の成長につながるチャンスを逃さないよう、一見自分に関係のないように思われる事柄にも常にアンテナを張ることを心がけていきたいです。

こうして高校時代を振り返ると、サッカーを通じて様々なことを学びましたが、当時は何も思わなかったことも、今なら非常に為になることが多いような気がします。そのため城北サッカー部の経験を単なる思い出として終わらせるのではなく、今を生き抜くための糧としていきたいと思っています。



最後に城北サッカー部では毎年、初蹴りが行われていますが、学年を超えてこれだけ大勢の現役生、卒業生が一同に集まるクラブは、城北内また他の高校を見てもなかなか無いのではないのでしょうか。私も高校、大学と友人との別れを経験してみても、一度関係が途絶えてしまつてから連絡を取ることの難しさを実感しています。これまでサッカー部の同級生、先輩、後輩と交友関係が続いているのは、この初蹴りによるところが大きいような気がします。これも宮本監督を始め、スタッフの方々、現役生また保護者の方のお力があったことだと思えます。社会人になり家庭を持つと思いますが、来年の初蹴りでは一人でも多くの方にお会いできることを楽しみにしております。陰ながら広島城北サッカー部のサッカーブルのユニフォームを大きな舞台で見ることを心待ちにしております。

高校サッカーの思い出

3回生 山下 哲平

こんにちは、今年卒業した山下哲平です。現在は筑波大に通っていますが、学校に通うのに坂を登る必要がない幸せを感じつつ、緑の多い道を毎日自転車で登校しています。友達と話すとき広島弁がだんだん消えゆく中なんとか残そうと頑張っていますが、いろんな県の人そんな言葉がまぎって変なしゃべり方になってしまっただけです。



そんな中で宮本先生から電話をもらい、現役の時と大して変わらないへたくそな文章を披露することになってしまいました。OBとして城北サッカー部を考えるのは初めてだし、城北での3年間の高校サッカーを思い出すのを楽しみに感じつつ書いたので最後まで読んでやって下さい。

高校サッカーで、というよりは今までのサッカー人生で一番鮮明に蘇ってくるキックは、やっぱり去年の選手権ベスト4をかけた観音戦のPKでのキックです。キャプテンとしてすごく情けなく、応援して下さっていた先生方やOBの方々に非常に申し訳なく感じました。あれほど後悔の残るキックは他にないです。正直今でもたまに思い出してめっちゃくちゃ悔しくて考え込んでしまうときもあります。ただ外したという事はやっぱり自分にダメなところがあったわけで、日常でも自分の気付かないところにまだダメなところがあるんだあるんじゃないかなっていう風に考えられるいいスイッチというか起爆剤というかそんな感じのものとして自分の中に存在しています。そういう風に考えられるのも宮本先生のコトバのおかげです。

先生からはいろんな名言(?)が飛び出し部室の中ではモノマネも現れるくらいでしたが、僕はその中でも、何度も何度も聞いてきた「前向きにいく」というコトバが好きで、

今でも日々生きる上でのベースとして僕の中に残っています。

こういったことも含めて、城北高校サッカー部ではサッカーをするうえでも生きる上でも大切なことを学ぶことができる最高の環境だと思っています。現役の時は気づきにくいかもしれないけど、筑波大蹴球部の友達の話なんかを聞いてみると、強豪校でも城北で学んだ大切なこと(例えばトップチームが大会などに出るのには、その他のメンバーや家族、大会の運営者などのほんとはたくさんのおおかげだということ、とかいろいろ)を全然分かっていないやつもいるし、最上段は自分で意識すればそういうことを学べるという特徴をもった最高の場だと思うので、いつまでもそういう場を残してほしいと思います。



最後に、3年のみんなはお疲れ様でした。総体の結果をきいて非常に残念だったけど、今年は8人くらい選手権まで残ると聞きうれししいし期待しています！ほんとにいい仲間たちで現役の時高3でひとりの時もあつたけどその明るさに救われました。個人的には全員残ってほしいけどそういうわけにはいかないってこともわかります。進路のことで迷うと思うけど、とりあえず自分で決めたことは後悔しないと思うので焦らずじっくり考えて、決めた道で『前向きに&楽しみながら』頑張ってください。(いかに『みんなで楽しめるか』も有意義に生きる上で大切だと思います！) Let's Play Hard Together! Smile Hard Together!

近況報告

昨年の高校選手権大会において、広島城北高校サッカー部は28年ぶりのベスト8進出を果たしました。決勝トーナメント一回戦では広島観音高校と対戦しましたが、延長戦の末にPK合戦で敗れ、残念ながら勝利という結果を得るにはあと一歩及びませんでした。応援して下さった皆様の思いに応えることができず、選手・スタッフともに非常に悔しく残念な気持ちを抱きましたが、同時により一層の高みを目指していく意欲を、強くかきたてられました。

今年5月、広島城北高校サッカー部が初めて中国高等学校サッカー大会への出場を果たしたことは、みなさんの記憶に新しいことと思います。この中国大会へつながる戦いは、昨年11月の広島県高等学校広島地区新人戦から、すでに始まっていました。

この大会でなんとか勝ち残って広島県高等学校サッカー新人大会への進出を決め、大会準決勝で瀬戸内高校に敗れたものの、ベスト4という結果によって、中国大会出場の権利を得ました。その後国泰寺高校、高陽東高校との中国大会県予選を連勝し、堂々広島県一位として大会出場を決めたわけです。

また、昨年から新たに導入されたアドバンスリーグにおいては、当初は2部リーグからのスタートだったものの、今年は1部リーグに昇格し、現在も熱く激しい試合を重ねているところです。

これらの大会に加えて、トップチームは九州サッカーフェスティバルや西日本サッカーフェスティバル、もみじカップへの参加、セカンドチームであるライノス101も、三次方面への遠征や新庄高校を中心として開催された交流大会に参加するなど、チーム全体が非常に密度の濃い、充実した時間を過ごしています。

各大会やトレーニングマッチの結果・戦績は、サッカー部ホームページ (saijodan.com) にすべて掲載してあります。菊一トレーナーが一連の流れをわかりやすく整理しておりますので、どうぞご確認ください。

しかし、勝負の大会として臨んだ6月の広島県高等学校総合体育大会においては、二回戦で高陽高校に敗れ、残念ながらベスト16という結果に終わり、目標とした全国大会出場には届きませんでした。

チームはすでに、8月からスタートする高校サッカー選手権大会に向けてリスタートしました。多くの三年生は引退し、受験という新たな勝負に挑んでいます。

ここまで積み重ねてきたもの、方向性は決して間違っていない。8人の三年生を中心に、選手・スタッフともに感謝の気持ちを忘れず、強くチャレンジしていきます。広島城北高校サッカー部をこれからもよろしくお願いいたします。

広島城北高校サッカー部 コーチ 岩井 竜彦

QPONのひとり言

【中国大会】

初出場！

開会式で『作陽グリーン』・『高川ブルー』・『境イエロー』…一緒に、『サックス&ブラック』が！

試合でも、J注目の境FWを90分間、完封！

やったぜ！中国ベスト8！

【田辺校長先生】

3月末をもって田辺範和校長先生が退職されました。

個人的にも生徒・教員として、たいへんお世話になりましたが、OB会でも5月17日に 田辺校長先生の慰労会行い30名のOBが集まり、皆さんから集まりました寄付でOB会から記念品を贈らせていただきました。

また、退職にあたり田辺先生からサッカー部に、ゴールキーパーを寄付していただきました。

田辺先生、本当にありがとうございました。

【一歩一歩】

今年は、上位進出を狙いましたが、残念ながら総体2回戦敗退。

しかし、中国大会出場など本当に一歩一歩前進しています。

今後も、3年後の創立50周年に向けて、爆発的に前進していきます！

広島城北高校サッカー部監督 宮本 誠 (19回生)